

Dynamics AX で2-Tierを実現

大型ERPとの2-Tier ERPで操作性向上と、災害時のリスク軽減をねらったグループ統合会計システムを実現。外部データセンタ内のクラウド仮想環境で運用可能なMicrosoft Dynamics AX を採用。



日本ユニテック株式会社様

日本ユニテック株式会社は、1991年10月に名古屋でソフトウェア開発事業として設立。1994年4月には生産管理システムのパッケージ「UNIMEX」を発表し、パッケージソリューションビジネスを専業とする企業です。2011年にはジークホールディングスとの資本、業務提携でグループの一員となりました。当時、ジークホールディングス本社、子会社ともにSAP ERP システムを使用しており、日本ユニテックもSAPを導入しました。しかし、操作性やライセンス保守料値上げの問題が浮上。また、震災発生による、リスク軽減から外部データセンタ上で運用させるMicrosoft Dynamics AX を採用。SAPとの2-Tier ERP運用を実現しています。

<導入の背景とねらい>

操作性の向上、リスク軽減

日本ユニテック株式会社（以下、日本ユニテック）では、ジークホールディングス（本社：東京）の一員となる前は「OBIC7」を使用して会計伝票入力を行っておりました。ジークホールディングスでは以前より、親会社と、各子会社はSAPを使用していましたので、日本ユニテックでもグループの一員となった際にはSAPを導入したのですが、導入直後、会計伝票入力担当者より、操作性やパフォーマンスの問題が多く見受けられていました

<2-Tier ERPの採用>

現場のニーズに合ったERP導入方法

以前は企業規模を問わず子会社にもSAPを使用するようにしていましたが、子会社の規模や業務によってはSAPがオーバースペックのまま使用している状況が発生しておりました。この点を改善したく思い、2-Tier ERPの導入を検討するようになりました。また、ライセンス費用や保守料金の面でも2-Tier ERPで運用することにより、大幅な改善が期待できたので、最終的にDynamics AXを2-Tier ERPで運用することに決定いたしました。



(株)エヌティ・ソリューションズ

<導入の経緯とシステム概要>

安価なライセンス費用

Microsoft Dynamics AX の最初の印象はコストが安いと感じました。同時接続ユーザー数でのライセンスカウントも他パッケージに比べると非常に魅力的でした。

ライセンス費用が低く抑えられ、ライセンス保守費用も大きく抑えることができました。

SAPとのI/F、導入について

グループ子会社なので財務データは最終的に親会社(ジークホールディングス)に渡す必要があります。このためAXからSAPというデータのI/Fを検討しなければいけません。この点については毎月AXから出力した伝票データ、一部のマスタデータをSAPに取り込むことで問題なく運用することができました。

「今回の導入は株式会社エヌティ・ソリューションズにお願いしました。以前から各種ERPの導入、コンサルタントなどの事業を手がけており、SAPとDynamics AXの両方について熟知し、導入実績がありましたので、問題なくプロジェクトを進行することができました。I/F部分の開発やサーバーなどの環境設定もエヌティ・ソリューションズに設計、開発していただきました。AXへの接続の際はリモートデスクトップサービス(RemoteApp)での接続を行っております。当初は東京と名古屋間でのレスポンスに不安がありましたが、いざ運用開始してみると、違和感なくAXを操作できています。」

Officeとの親和性

「当社では、以前よりWindows系OSとOfficeを活用していましたので、操作感についてはすぐに慣れ親しんでいきました。AX上のデータをボタンひとつでExcelにダウンロードできるなど、Officeとの親和性も標準で備わっているのも、大変重宝しています。」

今後

「現在は、Dynamics AXの会計モジュールを利用していますが、近い将来、販売管理、購買管理、そしてプロジェクト管理業務を含め、利用の幅を広げていきたいと考えております。理由としては、やはり操作性とOfficeとの親和性が非常に優れているという点が挙げられます。日々の業務の中では細かい操作感が重要で業務担当者の負担をどれだけ減らしていけるかが重要だと考えております。AXの場合、画面の項目配置や、表示非表示の選択などがユーザー単位で設定できることもあり、担当者レベルでの画面変更が容易にできる点も魅力的だと感じています。」

システム概要

